

【愛撫施術】整体師の歪んだ指先
～「あなたの為」を盾に、クリの凝りまで執拗にほぐされていく～

サンプル（一部抜粋）

（仕切りのカーテンを閉める音・小さなため息）

「...うつ伏せでベッドに寝転んで下さいね。
ゆっくり...診ていきますからね」

（指圧するような布の擦れる音）

「貴女の事だからきっと...無理したんですね。
腰がガチガチになっていますね。」

「...もう少し下、失礼しますね」

（お尻に優しく触れる）

「...？
痛かったですか？」

「いや、身体がビクッとしたので。
顔が少し赤くなっていますが、大丈夫ですか？」

「...しーっ。他の患者さんもいらっしゃるんですよ。
ただの施術なんですから、静かに。」

「...ここ、凝ってこりこりとしていますね。
しっかりとほぐしましょうね」

（クリトリスを指でなぞる音）

「腰に力を入れるといけませんよ。もっと力を抜かないと。
...んー、頑固な凝りですね。直接見てみましょうか」

「...どうしました？
僕はあなたの身体の為に施術をしているだけなのですが。」

「真剣に施術を受けて頂けますか？
その不調、治してあげますから」

「...僕、知ってるんですよ。今までの施術でも貴女が濡らしていた事。
少し際どい所に触れられただけで、小さく身体を震わせていた事を...。」

「...期待、していたんでしょう？ なら応えてあげないと、貴女の身体が可哀想だ。
楽にしてあげますからね」